

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

青い羽根募金の活動への協力依頼

－7月14日(月)三重県庁で－



7月14日(月)、「青い羽根募金強調運動期間」にあわせて、第四管区海上保安本部や水難救済会(永富洋一会長)の関係者が県庁を訪れ、青い羽根募金の活動への協力を求めた。

青い羽根募金は、海難事故が発生した時に救助を行う漁業者らを中心とした水難救済会の活動を支援するもので、毎年7・8月を中心に「青い羽根募金強調運動期間」とし、募金活動を展開している。

日本水産救済会、三重県水難救済会では、海の犠牲者皆無を目指し、今年も広く募金の呼びかけを行ってまいりますので、ご協力をお願いします。

平成26年度 第1回アサリ協議会

－7月15日(火) のり流通センターで－



三重県アサリ協議会(前田晃一会長＝松阪漁協)は7月15日(火)、三重漁連のり流通センター(松阪市)において「平成26年度第1回アサリ協議会」を開催し、アサリ採貝業者、漁協、行政関係者ら約30名が出席した。

同協議会は、県内アサリの安定生産と漁家経営の安定化等を目的として運営されており、今回は、鈴鹿水産研究室の『アサリの大量発生メカニズム(羽生研究員)』を皮切りに、『アサリ母貝場再生のための干潟造成への取り組み(畑研究員)』、『アサリ稚貝の移植放流先の検討(国分研究員)』をテーマに研究報告が行われた後、意見交換等がなされ、参加者は意見や質問等を様々な角度から投げかけていた。

三重県農林漁業就業フェア -7月12日(土)総合文化センターで-

7月12日(土)、津市の県総合文化センターで「三重県農林漁業就業フェア」が開催され、漁業関係で県内5つの組織が出展した。

このところ、マスメディアの影響もあり、「海女漁(海士漁)」に興味を持つ人の問い合わせが多く見受けられ、今回のフェアでも男性から海士漁就業の相談があった。

その他にも、漠然と漁業に興味がある方、独立自営を望む方など、県内外から様々な目的をもった人がブースを訪れていた。

面談を行った担当者は、「20~30分の少ない面談時間のなかで来訪者に漁業の実態を理解してもらうことはなかなか難しいが、このような取り組みを根気よく続けて着業に結び付けていくことが大切」と話していた。

会場全体の様子



熱心に面談



『第36回三重県海の子作品展』 作品募集がスタート!



(第35回 三重県知事賞)

「第36回三重県海の子作品展」の募集が始まりました。“海を愛し、漁業に対する理解と認識を高めるとともに、漁業後継者の育成強化を図ること”を目的として毎年実施している同作品展は、県下沿海市町の小中学校を対象に募集を行い、審査の上、各賞を選定する。上位者は全国展へ出展し、昨年は水産庁長官賞を1名、NHK会長賞を1名が受賞した。応募締切は平成26年9月8日になっており、実施要領・応募要領につきましては三重県漁業協同組合連合会HP (<http://www.miegyoren.or.jp/>)に掲載しておりますので、皆様の応募をお待ちしております。

【主な予定】

- 7月19日(土)
海浜清掃(津)
- 7月26日(土)
第9回海難遺児チャリティコンペ
マリンカップ(津)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。